



# 慶應 J.S.K.S.クラブ 新入部員募集！

我々と一緒にラグビーを楽しみませんか？

J.S.K.S.は1929年創設という日本最古の学生ラグビークラブチームです。関東学生クラブ選手権（2011年は2部）を活動の中心とした、慶應義塾大学の学生チームであり、体育会チームとは異なり、クラブ・チームとして学生による自主運営をしています。そのため、フレンドリーな雰囲気と強力なOBネットワークを誇っています。

我々の目的は、クラブチームとして仲間達と強いチームを目指し誠実・真摯にラグビーに取り組み、一生の友を得ること、そして学業との両立を実践することです。

ラグビーを通じて、多くの仲間と共に充実した学生生活を送ってみませんか？ もちろんラグビーだけでなく、学業も含めて大いに充実した学生生活を送ろうとする皆さんの入部をお待ちしています！

ラグビー経験者だけでなく、未経験者の方々も大歓迎です！

## 年間スケジュール

3月：春合宿

4月～6月 KCRFリーグ戦、クラブ総会&ラグビー祭

6月下旬 同志社大学H&T 定期戦（隔年で遠征）

8月中旬～ 夏合宿（菅平）

9月中旬～ 関東学生クラブ選手権リーグ戦

11月 学生クラブ地区対抗予選

12月 学生クラブ東西対抗



主な練習場：火曜&木曜：17時半～19時半

慶應義塾大学 三田綱町グラウンド

（綱町グラウンドでは、医学部ラグビー部との合同練習）

土曜&日曜：10時～12時

多摩川河川敷（JR南武線鹿島田駅より徒歩15分）

三郷サンケイスポーツセンター グラウンド

（つくばエクスプレス三郷中央駅よりバス15分）



慶應

# J.S.K.S.クラブ Q&A

Q:慶應J.S.K.S.クラブとはどのような活動をするクラブですか？

慶應J.S.K.S.クラブは1929年（昭和4年）に発足した日本で最初に誕生した学生ラグビークラブチームです。慶應義塾大学の学生によりチームを結成し、関東学生クラブ選手権、KCRF（関東クラブラグビーリーグ戦）などに参加しています。

Q:J.S.K.S.ってどういう意味ですか？

ラグビーを愛する慶應義塾の塾生5名が「一人はすべての為にしてすべては一人の為に」のスローガン下に創部したのが始まりです。おりからの大不況時代を揶揄し「地獄の沙汰も金次第」の頭文字から「J.S.K.S.」と命名したと伝わっています。

その後クラブの精神を表す言葉として以下のように解されて来ました。

J: Justice 正義  
S: Soundness 健全  
K: Kindness 親切  
S: Sacrifice 自己犠牲



Q:慶應の学生だけしか入れないのですか？

当クラブは慶應義塾大学に在籍している学生から構成される学生クラブチームです。但し、マネージャー等は他大学に在籍するメンバーも所属しています。

Q:ラグビーの初心者でも入れますか？

我々は、一生の友を得る、強いチーム作り、自主運営、学業との両立という、理念の旗を掲げ、"never give up"のスピリットで全国地区対抗大学ラグビー大会への出場・優勝を目指します。その目標に向けて一緒にチャレンジするメンバーを募集します。



# 慶應 J.S.K.S.クラブ Q&A(その2)

## 慶應J.S.K.S.が求める学生：

J.S.K.S.の理念及び下記練習方針に賛同し、4年間のラグビーとの取り組みで、人生の糧になる何かを勝ち取る真摯な積極的な姿勢を持つ学生

- 高校時代にラグビーをプレーしていたが、新たなチャレンジをしたいと考えている慶應義塾大学の学生
- 高校時代ラグビー以外のスポーツをしていたがラグビーに新たにチャレンジしたいと考えている慶應義塾大学の学生
- プレーヤー以外でラグビーに興味があり、クラブの広報活動、運営の支援、マネジメントに興味のある大学生（慶應義塾大学、他大学を問いません。）



## 活動内容：

ラグビープレーヤーを目指す学生は基本をしっかりと練習します。ラグビー以外のスポーツをしていた学生には友人、先輩達が懇切丁寧にコーチ指導します。

OBもメンバーもラグビーを高校時代に経験したものばかりではありません。ラグビー未経験者、学部、出身高校は多様性に富みお互いに助け合い、切磋琢磨するカルチャーを醸成しています。慶應J.S.K.S.は、練習となれば真面目になり、時には仲間同士でも厳しい声を掛け合っています。また、学生主体で練習を行っているので、強くなるためには何が必要なのかビデオを使ったミーティングなどを行ったりし、日々自分たちで考えています。

## Q:体育会とどう違うのでしょうか？

当クラブは体育会の所属団体です。ラグビーを行う学生チームという点では同じですが、クラブの財政的サポートを得ながらも、あくまでチームは学生主体で自主運営しています。多くの部員はゼミに参加し勉強にも励むなど学業とラグビーを両立させ、その結果として、一生の友人をつくることもまた重要と考えています。その為に真摯・誠実にラグビーに取り組む強いチームを作り上げようと努力しています。



# 慶應 J.S.K.S.クラブ からのメッセージ



## 現役メンバーからのメッセージ（学年表記は2011年度のもの）

H23年度 主持



風間 広大  
経済学部4年 No.8, FL  
(慶應義塾志木高等学校出身)

新入生の皆さんこんにちは、J.S.K.S.クラブ主持の風間広大です。  
J.S.K.S.クラブは創部1929年の歴史と伝統のあるチームで、OBの方々にも練習、就職など多岐に渡ってサポートして頂いています。しかしながら、J.S.というチームを作るのは全て皆さんの力です。練習メニューの考案から試合のメンバーまで、全て自分達で決めています。特に今年度は「楽しく、考えて、真剣にラグビーをやる」ことを信条に、体制を変えて学年に関係なく一人一人がチームを作っています。今シーズンは残念ながら2部からのスタートになりますが、1部昇格という目標に向かって必死に取り組んでいます。目標までのアツローチの仕方は無限で、それを一緒に考えて作ってくれる仲間をJ.S.は必要としています。最高の仲間達と共に、チームを作っていきますか？

平松 知樹  
理工学部 3年 FL  
(慶應義塾志木高等学校出身)



このクラブチームに入って本当に良かったと思っています。上下関係があまり厳しくないため、学年を超えたとても良い仲間ができました。OBの皆さんのサポート体制が充実していることも大きな魅力です。そんな仲間たちと真剣にラグビーの練習、試合、そしてチームの運営に取り組めることは、大学生活ならではの貴重な体験！是非多くの仲間とこの体験を共にしたいと思います！今年は1部昇格を目指してメンバー全員の力を結集する年です。新しい力を待っています。是非、JSと一緒にラグビーをやりましょう。

太田 雄大  
経済学部 2年生 CTB  
(岡崎高等学校出身)



僕がJSKSクラブに入ってもうすぐ一年になります。JSKSクラブは慶應義塾志木高校ラグビー部出身の生徒が多数を占めます。もちろん最初は外部生として馴染めない部分もありましたが、一年間共に様々なことを経験し今ではかけがえのない仲間がたくさんできました。また体育会とは違い上下関係に厳しすぎるどころはなく、先輩方には練習以外でもとても仲良くしてもらっています。JSKSは学生が中心のクラブであり、OBの方々の支援と協力をうけながら日々活動をしています。それゆえに自由を非常に重んじており、留学や資格のための勉強もすることができます。大学生生活を充実させたいのなら、ぜひJSKSクラブと一緒に活動しましょう。

## 女子マネージャーからのメッセージ

秋山 翔子  
薬学部4年 MGR  
(青山学院高等部出身)



はじめまして。JSKSマネージャーの秋山翔子です。私がJSKSの最大の魅力であると感じているのは、学生主体の運営で80年以上続けてきている、ということなのです。学生の自主性を重んじた活動をしているので、本当にラグビーが大好きなメンバーが集まっているし、自分次第で多くの可能性があります。また、皆がチームに愛着を持っているため、卒業後も強い絆ができます。ぜひJSKSで素晴らしい大学生生活を過ごしてください。



# 慶應 J.S.K.S.クラブ からのメッセージ

## OBからのメッセージ（クラブ会報より）

### 私とラグビーとの出会い

弁護士 村松 謙一（1977年 法学部卒）

私は、静岡県は清水港で生まれ育った。  
清水といえど、全国でも有名なサッカーの町だ。  
清水市の決勝戦が全国のサッカーの決勝戦と言ってもよいくらい、それはレベルの高い内容であった。残念ながら、ラグビーはそれほど広まっていなかった。かくいう私は、サッカーではなく、小学校、中学校、高校を通して、甲子園を目指して、野球に明け暮れていた。大学も、神宮でのプレーを夢見て、夏、冬のセレクションを終えて、慶應大学の野球部に籍を置いた。  
当時、慶應大学の4番は、清水東高出身者で固めていた。ちなみに、40年入学の松下勝美先輩、44年入学の山下大輔先輩も清水東高出身者で、慶應3連覇の顔ぶれがそろっていた。鳴り物入りで期待されて入った私は、肩の故障等その他の事情で野球部をリタイアしたが、困っている人を見ると放っておけない性分だったから、どうせなら、世界一難しい司法試験を目指した。  
そんな時、「ラグビー」と出会った。  
「one for all, all for one」との言葉や「for others」（他者のために）（亡き娘が通っていたフェリス女学院のモットー）が好きだ。フォワードが根となり、バックスに球を回し、トライという花に結びつけるこのチームワークが好きだ。  
今、私は「再建専門弁護士」として、会社に携わる人々の人生を救済する仕事をしている。弁護士も「フォワード」のような縁の下の力持ちのようなものだ。この精神も、ラグビーで培った敵のトライを防ぐためライン際で「耐え忍ぶ」という精神と、生まれ育った町の清水の次郎長の「弱気を助け、強きをくじく」という義侠心から来ているのかもしれない。  
会社の再建は、倒産という悪魔にトライを許したら、会社は潰れる。そこで働く従業員とそのご家族の生活が壊れてしまう。時には心を壊し、命までも奪い取ってしまう。だから、なんとしてでも、1年でも2年でも、ラインぎりぎりで耐えて、耐えて、耐え抜くのだ。そして、あえて自分より力のある倒産という悪魔、困難な敵に挑むのだ。負けるわけにはいかないのだ。

私の「仕事の流儀」はこうだ。  
学識経験者らは、ゾンビ企業は救済に値しないという。そうだろうか。私は、ゾンビ企業も生き返らせようと思う。否、生き返らせたい。なぜなら、私の企業救済は「人間の救済」「生への救済」を目的とし、「事業再生」はその副次的結果に過ぎないからだ。あくまで人間の心の救済を成し遂げたい。世間からゾンビ企業と評されようと、そこには人間達が生きている。  
あるゾンビ企業がある。私が関与して10年が経ち、未だゾンビの域を出ないが、今でもかろうじて生きている。しかし、小学校6年生だったその従業員の子供は今春、無事大学を卒業し、かけがえのない青春時代を過ごせた。ゾンビ企業を生かしてきた意味がそこにある。生きてくても生きられなかった私の娘の分まで、学生諸君には人生を全うして欲しい。誰も平穩に生き抜く権利を有している。だからこそ、企業を救済する意味がある。膿は私が吸い取るから。  
どうして、そんな再建事件でそこまで自分を追い込むのか、と問われることがある。私の答えはいつも決まっている。企業救済は海難救命士のようなもの、海に溺れし者を救済するのに、何の理由も、ましてや大義名分など必要ない。あきらめたらそこで終わり、そこにあるのは己の信念と使命感、大きな情と少しの努力があるのみ、それが私の流儀である。

ラグビー、万歳！！



慶應義塾大学 体育会所属団体

# 慶應 J.S.K.S. クラブ 新入部員募集!

詳しくはホームページ(<http://keio-jsks.com/>)をご覧くださいの上、  
「お問い合わせ」からご連絡ください。



<http://keio-jsks.com/> アクセスはこちらから!



慶應J.S.K.S.クラブ  
公式ホームページ

## その他概要

理事長：二島建夫（第5代）

クラブ員数：学生会員 約50名、正会員（OB） 約600名

参加リーグ：東京都学生クラブ選手権（1部）、  
神奈川県社会人クラブ選手権（3部）（OB）

主な試合会場：サンケイスポーツセンターラグビー場（三郷OURグラウンド）他



二島建夫 理事長

## 2011年度の就職内定先

三井不動産、トヨタ自動車、東京海上日動火災保険、第一生命、大塚商会、センコー、レンゴー、  
三井住友銀行、伊藤忠商事、キヤノンマーケティングジャパン、東レ・メディカル、日本生命保険、  
日本ユニシス

## 2010年度の就職先

三菱商事、富士通、DTS、三井住友海上保険、NTTコミュニケーションズ、曙フレイキ、  
フリチストン、JR東海、トーハン、IHI、三浦工業、第一生命、NHK、大日本印刷、  
中央労働金庫